

冬の夜は白く静かき暮暮なり 五夜

御愛ひとては海をわたる 佛園 遠路の

鶴鷺やうらゆゆとあそむる 五夜

あめ見入梅の露ありとて雨 寄山

芥子布のけしき花雪の氷なまら 自來

飯しんそとるまつる花雪 千代丸

霜もやまらけ下におははる花 花足

六月とてはあつてもちんか 二川

雁毛のそよみ風びくはるや野の雪 雪国

冬の日つらうもあつる花雪の香 芳徒

昔道ののびる月とては 可學

旅る旅るかと野の月のつらき 僧 石代記

呼ぶまぬしとてあはれみのし 希江

水仙のわたる月とては 角力と 幸平

思ひつらう

いしやう

馬もうなつてはあつるをまはる 旅人 止まら

ひしき二葉とてはあつるをまはる 左 塚山

冬夜のわたる月とてはあつる 撰者 昌順

文化六年冬 松尾毛 昌順

